

【和歌山県新宮市】

背景・課題

- ・南海トラフ巨大地震の発生時には、津波による大きな被害が想定
- ・小中学校の児童・生徒数が減少
(4,988人【S62年】⇒2,342【H24年】)

防災の視点を踏まえた保育所等の再編

- ・河川近くの保育所を統合して駅前の小学校跡地に移設。保育所の跡地には、老朽化した図書館等の複合施設を整備。
- ・新しい保育所についても、土地の嵩上げを行い、屋上を津波一時避難施設に位置付けるなど、防災力の向上を実現。

再編の効果

○都市防災力の向上

- ・南海トラフ巨大地震に備えて保育所の土地嵩上げ
→0.3m~1.0mの津波の浸水想定に対し、1.0mの嵩上げ
- ・保育所の屋上を津波一時避難施設に位置付け
→約1,000人の避難が可能

○施設統合による維持管理費の削減

- ・小学校統合による学校跡地への保育所整備
- ・保育所2箇所を1箇所に統合
→後年度の運営費約2,400万円/年(25%)削減(9,800万円/年→7,400万円/年)

■基幹事業 中心拠点誘導施設
文化交流ゾーン整備（図書館、文化ホール等）
○熊野文化の拠点として整備。中心市街地内に多数存在する歴史文化資源を生かしたまちなか観光を推進し、中心市街地の活性化を図る。

文化複合施設完成イメージ



■基幹事業 高次空間形成施設
市道伊佐田町丹鶴町線

■基幹事業 地域生活基盤施設
観光案内・サイン設置

■新宮市立大浜保育所（元の施設）
○元々海岸沿いに位置し、現施設（旧幼稚園舎）に移転
○南海トラフ巨大地震津波浸水想定区域内

新宮城跡
（国史跡）

■新宮市立熊野地保育所（元の施設）
○平成23年紀伊半島大水害で被災

旧西村家住宅
（国重要文化財）

中心拠点区域

■関連事業
防災拠点ゾーン整備（市庁舎整備）

■基幹事業 中心拠点誘導施設
子育てゾーン整備（統合保育所、公園）
○駅前の小学校跡地に整備
○親・子・孫3世代の賑わいにより人の流れを創出。近接する商店街へと誘導し、まちの活性化を図る。

■誘導施設 統合保育所
（施設の統合舎）

統合保育所（新宮市立蓬萊保育所）



↑1.0mの嵩上げ